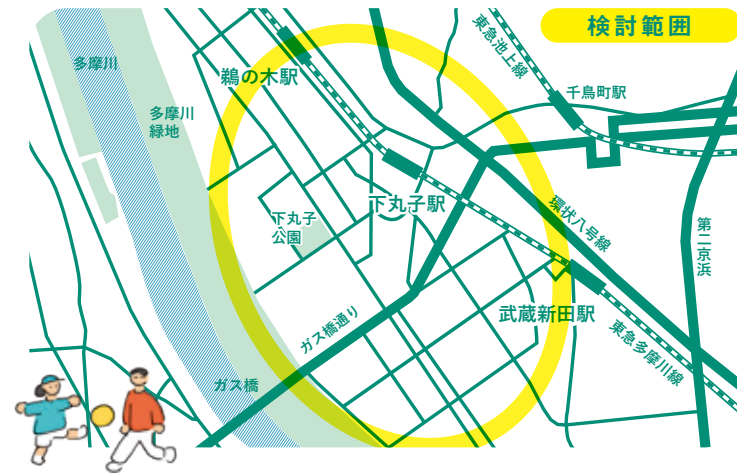


Meet-Up Vol.2 Shimomaruko

「下丸子駅周辺地区グランドデザイン」の策定に向けた さまざまな取り組みが進行中！

地区の魅力を引き出し、未来につなげるまちづくり

2023年に大田区は、概ね20年後の将来像とその実現に向けたまちづくりの方針として、「下丸子駅周辺地区まちづくり構想」を策定しました。この構想は、上位関連計画や地区の関係者との意見交換等を踏まえて取りまとめたもので、地区の関係者と共有しながらまちづくりを推進するための指針となるものです。2024年度以降は、構想の中で掲げられる「まちづくりコンセプト」の実現を目指し、より具体的な取り組みを位置付ける「(仮称)下丸子駅周辺地区グランドデザイン」の策定に向けた活動を進めています。



まちづくり TOPICS

駅周辺の未来を議論する まちづくり検討会が本格スタート

2024年2月に始動し、12月までに計5回にわたって開催された「下丸子駅周辺地区グランドデザイン策定に向けたまちづくり検討会」。この検討会は、「下丸子駅周辺地区まちづくり構想」で掲げるまちづくりのコンセプトや目指すまちの姿を踏まえ、より具体的な取り組みを検討する「(仮称)下丸子駅周辺地区グランドデザイン」の策定に向け、区民の意見を広く取り入れる議論の場として位置づけられています。地区関係者や下丸子のまちづくりに関心のある方がグループに分かれ、街路、オープンスペース、商店街や地域の資源など、さまざまな観点からまちの課題や将来像への議論を重ねました。



まちなか空間の新たな活用に向け 駅北側の道路で実証実験を行いました

2024年11月30日(土)に、地域と連携して実証実験を行いました。この実験は、下丸子駅前やまちなかにおける居心地の良い公共空間の創出を見据えたもので、「下丸子駅周辺地区まちづくり構想」で掲げる目指すまちの姿の実現に向けた試みです。下丸子駅北側の区道の一部にテーブルやベンチを設置し、休憩や交流の場としての活用方法を検証しました。大田区では、実験を通じて収集した利用データや地域の声をもとに、今後のまちづくりに活かしていく方針です。



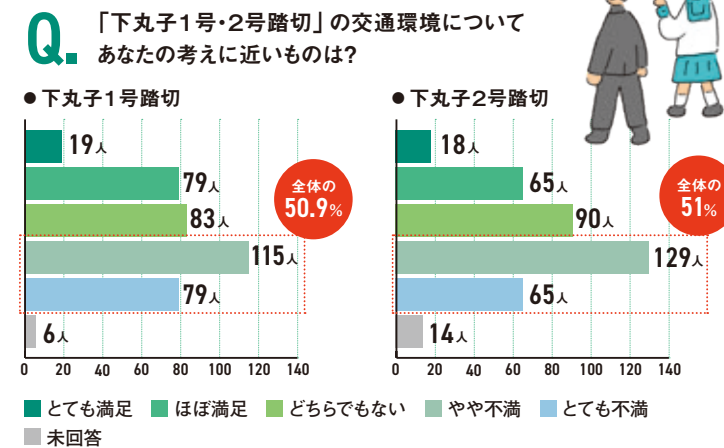
おおたオープンファクトリーと ストリートキャンピングが同時開催

2024年11月30日(土)には、区の実証実験のほか、地域主体の取り組みとして「おおたオープンファクトリー2024(主催:おおたオープンファクトリー実行委員会)」と「第4回しもまるこストリートキャンピング(主催:シン下丸子プロジェクト実行委員会)」が開催されました。おおたオープンファクトリーでは、大田区内各所の工場が、普段見ることのできない製造現場を一般公開。職人との交流やワークショップを通じて、大田区の町工場の高度な技術に触れる貴重な機会を提供しました。また、しもまるこストリートキャンピングは、下丸子駅南側の道路を使用してさまざまなイベントを開催。青空フードコートや一日限定の足湯「湯の町まるこ」、スタンプラリー、オリジナルロングTシャツの販売など、地元のお店を中心にさまざまなブースが出店しました。複数のイベントの同時開催により、多くの人々がまちを訪れ、地域の新たな魅力を発見する一日となりました。

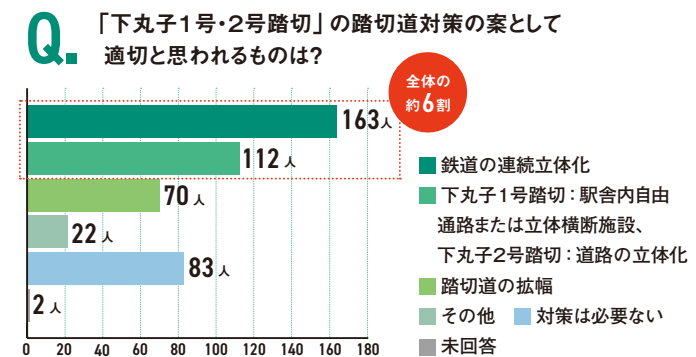


踏切の安全対策に向けて アンケートを実施しました

2024年9月27日(金)から10月18日(金)にかけて、「下丸子駅周辺の踏切に関するアンケート」を実施しました。この調査は、駅前の下丸子1号踏切、ガス橋通りの下丸子2号踏切の解消やそれに併せたまちづくりに向け、地域の方から踏切の利用態や現状への認識などに関するご意見を伺い、当地区のまちづくりを検討するうえでの参考として活用することを目的として行われたもので、489名の方に回答いただきました。その結果の一部をご紹介します。



下丸子1号・2号踏切ともに利用する方の踏切に対する満足度は、「とても不満」「やや不満」と回答した方が、1号踏切は全体の50.9%、「満足」「ほぼ満足」は25.7%、2号踏切は全体の51.0%。「満足」「ほぼ満足」は21.8%と、いずれも半数を超える結果になりました。



また、踏切対策として適切と思うものに対する回答では、「鉄道の連続立体化」が36.1%と最も多く、次いで「1号踏切については駅舎内自由通路または立体横断施設を設置する、2号踏切については道路を立体化する」が24.8%となり、約6割の方が抜本的もしくはそれに近い対策を求める結果となりました。今後は、この結果を踏まえ、踏切の安全対策や周辺環境の改善に向けた検討を進めていきます。

アンケートの結果は
ウェブで公開中!



これからの下丸子、
どんなまちにしよう?



2023

「下丸子駅周辺地区
まちづくり構想」策定

まちの将来像とその実現に向けた方針をまとめ、関係者と共有しながら進めるための指針として「下丸子駅周辺地区まちづくり構想」を策定しました。

2024

「下丸子駅周辺地区グランドデザイン
策定に向けたまちづくり検討会」を実施

「まちづくり構想」で掲げるまちの将来像を実現させるため、より具体的な施策を提案する「まちづくり検討会」を開催しました(裏面参照)。

2025~

「(仮称)下丸子駅周辺地区
グランドデザイン」の策定へ

「まちづくりコンセプト」の実現に向け、より具体的な取り組みを検討・整理する「(仮称)下丸子駅周辺地区グランドデザイン」の策定を進めます。



まちづくり検討会発の
アイデアをピックアップ！

下丸子“これから”MAP

2024年2月に活動をスタートした「まちづくり検討会」は、約40名の地域関係者から構成され、2024年度は4つのグループに分かれて議論してきました。そこから生まれたアイデアをテーマごとにピックアップし、下丸子の地図にマッピング。メンバーのコメントとともにをご紹介します！

GROUP-A

“街路”を考えよう



駅前空間から広がる 歩行者にやさしいまちづくり

東急多摩川線の中でも利用者数の多い下丸子駅では、踏切による混雑が問題になっています。歩行者にやさしいウォークアブルなまちづくりを進めるにあたって、安全で快適に歩ける街路空間について検討しました。駅前空間を中心に歩道の整備や公共交通の見直しなど、さまざまな観点から解決策を考案。さらに、地区の回遊性向上にも視野を広げ、まちなかの滞留スペースの確保や多摩川とのつながりの強化など、街路空間の考え方について議論しています。

メンバーから ひとこと



水野彩永子さん

子育てをしているまちで、行政や区民同士でフラットに話し合う機会が新鮮で貴重な体験でした。今後、より具体的に議論を進めるには、グッズの作成や情報発信などで将来像をビジュアル化し、“下丸子ファン”を増やしていくことが重要。国内外の都市を参考に、次世代にも長く愛されるまちの可能性を探りたいです！

GROUP-B

“商店街と産業”を考えよう



下丸子ならではの魅力を活かした 新しいコミュニケーションの場を

「商店街」や「町工場」は、下丸子のまちの風景を形づくっている重要な文化・産業のひとつ。そうした地域ならではの魅力をさらに発展させていくためには、地域住民がその強みや魅力について理解を深め、新たな活動が生まれる機運を高めていくことが大切です。具体的には、地域で働く人々や企業、商店街のお店の魅力を伝える場の充実、さらに住民同士が気軽に情報交換できる機会の創出など、地域活動に関心のある人が挑戦しやすい環境づくりについて議論しています。

メンバーから ひとこと



平川孝さん

下丸子のまちについて熱い思いを持って考えている人がたくさんいることを改めて実感しました。メンバー以外にも、才能を持っているけれど、まだまだ知られていない人たちがいるはず。これからはそうした人たちの才能を積極的に発掘し、活躍できる場を広げていくことで、まちの魅力はさらに向上すると思います！

GROUP-C

“オープンスペース”を考えよう



多目的に利用できるスペースを 駅前やまちなかに増やす

多摩川河川敷や下丸子公園など、住民が体を動かしたり、滞留したりできる場所が充実しています。その一方で、用途が限られていたり、下丸子駅から距離があったりという課題も。そこで、将来の駅周辺の姿を見据え、駅前広場や公共空間の活用方法を検討。さらに、河川沿いの地域としての特性を踏まえて災害へ備えることの必要性についても着目し、さまざまな観点から駅前やまちなかの空間の活用方法について議論しています。

メンバーから ひとこと



青木こずえさん

同じまちに暮らしていても、人それぞれの関わり方や視点があり、ほかのメンバーと意見交換をする時間は刺激的で楽しかったです。今後は、目指すゴールについて社会的な合意を形成することが大切。下丸子のまちの未来を考える人が少しでも増えるよう、まずは自分自身が楽しんで関わっていききたいです！

GROUP-D

“地域資源と景観”を考えよう



今ある資源を活かし 地域内外から人が集まるまちに

下丸子にはガス橋通りや多摩川河川敷、神社、大田区民プラザなど地域特有の自然環境や文化資源があります。そうした地域資源を活用し、まちの魅力を高めていくために、地域の情報発信をはじめ、季節の行事やイベントとの連動、名所をつなぐネットワークの確保など、さまざまな角度から景観づくりを進めるアイデアを検討。既存の資源を最大限に活かし、多様な人が関わるプラットフォームとして、まち全体の魅力を引き上げることを目指して議論しています。

メンバーから ひとこと



岩橋秀美さん

検討会では自由に発言でき、また多種多様なジャンルの人の意見を聞くことができて面白かったです。今後、より具体的に施策を進めていくためには、専門的な技術や知見がさらに必要になってくるはず。今後はそうした経験豊富な人たちの巻き込みながら、少しでも多くの成功例をつくっていきたいと思います！